12 月 25 日(土)に、能美市内の小学生とその保護者を対象に「第 1 回のみ SDGs 市民ワークショップ」を行いました。

今回、会場となったのは能美市でサステナブルなモノづくりを行う小松マテーレ。

同社のファブリックラボラトリー「fa-bo（ファーボ)」での制作体験と施設見学を通して、捨てられてしまうものに価値を加えて再利用する「アップサイクル」について学びました。

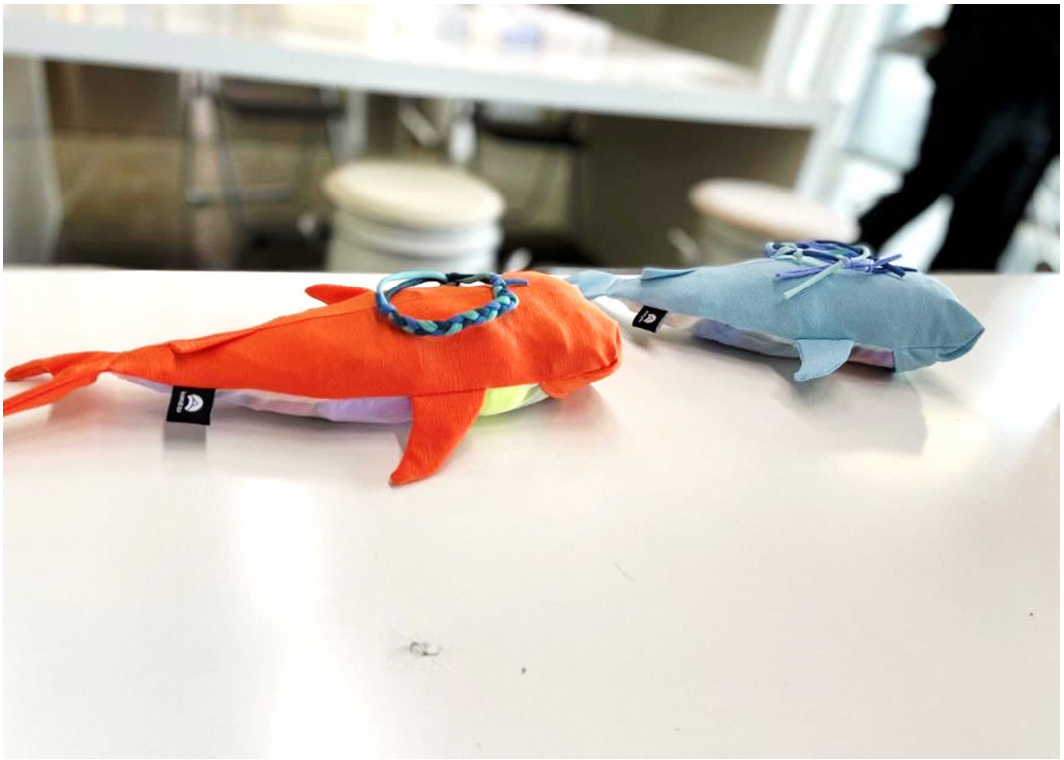
ワークショップ当日はクリスマス。
サンタ帽を被った SDGs 推進室の担当者がクイズを交えながら SDGs に関するミニ講座を行いました。
「アップサイクルの取組は、SDGs のゴールの何番につながると思いますか？」というクイズに、
親子で顔を見合わせて首をかしげる参加者の方々も。(正解は、12 番の「つくる責任、つかう責任」です。)

染色体験では、たまねぎの皮やワインの搾りかす、オリーブの葉など、
これまで捨てられていた素材からつくった自然にやさしい染料を使い、絞り染めに挑戦。

編み物体験ではミサンガを制作しました。使用している材料は、マスクの製造過程で余った紐。
それぞれ好きな色を選び、大人も子供も真剣に編み上げていきます。

製品の端切れで作ったカラフルなボールを詰め込んでクッションに。
出来上がったクッションには、小松マテーレの技術を生かした抗ウイルス加工や消臭効果などの機能を付け加えました。

fa-bo の見学の様子。小松マテーレのサステナブルなモノづくりの歴史や、
染色排水の処理過程で発生する廃棄物をリサイクルした新しい素材など、繊維と染色にまつわる世界を楽しみました。



参加者親子が制作したクッションとミサンガ。

ワークショップには小学 1 年生から 6 年生までの児童とその保護者の計 20 名が参加しました。

制作体験中は保護者と児童との共同作業がうまれる場面もあり、小松マテーレの作り出す素材や色あいを楽しみながら、家族で学びの時間を共有することができました。

参加した方からは、「今までは、いらない物を捨てていたけど、これからは何かに使えないか考えてからにしようと思います。」「知っているようで、知らない事がたくさんあり、とても勉強になり、親子での思い出にもなりました。」などの感想が寄せられました。

SDGs について感じたこと、学んだことを活かして、お家でもできることから始めていただければと思います。

能美市では今後も市民の方が SDGs を身近に感じるきっかけとなるようなワークショップを企画していきます。